

「追加予定博物館は55館、今秋追加オープンへ」

平成14年10月から11月末まで行った伊賀まちかど博物館再募集には、伊賀全域から合計で65件の応募をいただきました。応募いただいた全件について、推進委員会にて調査を行い、博物館の認定にかかる検討を重ねた結果、55館が新たに伊賀まちかど博物館として皆さんの仲間入りする予定となりました。今秋からは、既存館85館に追加予定館55館を合わせた合計140館で、新たに伊賀まちかど博物館をスタートする予定です。

なお、今回残念ながら御都合等で6館が伊賀まちかど博物館を閉館されることとなりました。今後、概ね下記のスケジュールで追加予定館を含めた新しいガイドマップ等の再作成等の準備を進める予定をしていますので、皆様方にもガイドマップ等への掲載原稿の確認等、さまざまなお願いを申し上げます。

「伊賀まちかど博物館」追加オープンスケジュール

*詳細は決定次第通知させていただきます。

1. 6月～8月下旬 新ガイドマップ等作成
2. 9月初旬 { 追加予定館の館長会議の開催（認定書交付等）
全館長へ新ガイドマップ等掲載原稿の最終確認依頼
3. 10月初旬 { 追加決定館の開館
伊賀まちかど博物館全館長会議の開催（開催予定場所 伊賀県民局）

—追加予定館の概要—

*今後確認作業の中で内容が変更する場合がありますのでご承知ください。

1. 追加予定館数

- ・上野市18館 ・名張市19館 ・青山町2館 ・阿山町11館 ・伊賀町3館
- ・大山田村1館 ・島ヶ原村1館 計55館

2. 内 容

彫金などの手仕事や、伊賀焼などの伝統産業、自然豊かな神社やコレクションなど

～閉館のお知らせ～

上野市の「街かどきもの茶論」、「布袋の館 今井豊店」、阿山町の「伊賀焼博物館 イナモリ」、伊賀町の「伊賀ガラスミュージアム ツゲガラス」、大山田村の「奥欄間博物館」、「テディベア博物館 VERY BEAR」、以上6館については残念ながら閉館されることとなりました。

閉館される皆様のこれまでの御協力に感謝いたします。ありがとうございました。

4月20日

「生誕360年 芭蕉さんの道・であいウォーク」に参加しました

上野市で開催された「生誕360年 芭蕉さんの道・であいウォーク」に伊賀まちかど博物館も参加しました。この事業は平成15年度県民の日記念事業として「2004伊賀びと委員会」などの主催により開催されたもので、伊賀まちかど博物館からは、「私的民俗博物館」の松生館長と「街角ブリキのおもちゃ博物館 TINs Cafe」の濱田館長にご協力をいただきました。

いつもの館での公開ではなく中町集議所前のテントの中、しかも濱田館長には、ご趣味のマッサージのお仕事をと、異例のご依頼をさせていただくこととなりましたが、松生館長の軽妙な語り口での展示物の解説と、濱田館長の本格的な足裏マッサージは、雨天にもかかわらず、県内外からご参加いただいた多くの方々に、「伊賀まちかど博物館」の持つ多様な魅力をお伝えできたものと思います。

『伊賀の女将』、「まんなか博覧会」に出展！！



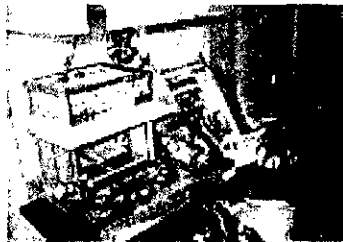
▲[伊賀の女将展]会場
一身田寺内町内の民家をおかりして～

津市一身田で開催された「三重のまちかど博物館まんなか博覧会」。今回、伊賀まちかど博物館は『伊賀の女将展』と銘打って、「愛の木目込み人形館」「糸と織物博物館」「絵手紙いろは」「煙草クラフト博物館」の4館にご出展をいただきました。

一身田寺内町の皆さんの協力のもと、実際にお住まいになっていらっしゃるお宅の一部をお借りして展示、実演をさせていただきました。狭い寺内町は、まちかど博物館一色になり、また、町外から訪れるお客様の多さに驚いた町内の皆さんがあわてて見にいらっしやったりと、町を挙げての盛大なイベントになりました。もちろん、『伊賀の女将展』は、ここでも大盛況！熱心に木目込み人形のことを質問する子、糸車に大喜びの子、必死で煙草クラフトの忍者を数える姉妹、どうしても絵手紙を見たいからとわざわざ電話をかけて雨の中を飛び込んできた人…ここにも素敵な出会いがたくさんありました。初めてこうしたイベントにご出展くださった「愛の木目込み人形館」服部館長の『こうして頑張っ出てくれば、こんないいことがあるんやなあ…』という言葉。すべてを表してくれているような気がします。



▲愛の木目込み人形館 服部館長のお話に興味津々の子どもたち



▲山崎館長の作品「煙草クラフトの伊賀流忍者屋敷」に潜む忍者は何忍？



▲絵手紙 いろは 心のこもった絵手紙が勢揃い

推進委員レポート 「新たな出会い始まりました。」

伊賀町の「糸と織物博物館」の山本館長が、尾鷲市の東紀州まちかど博物館「ヒノキアート」の池田館長を訪ねました。

これは池田館長が、生成りのひのきの美しさもさることながら、さらに自然染色によるインパクトのある作品が作りたいと山本館長に依頼していたひのきシートの染色が出来上がったことから山本館長が作品を持参の上、尾鷲を訪れたものです。

たまねぎ、やしやぶしを材料に、コチニール、鉄焙煎などの方法でみごとに、黄色、茶色や灰色に染め上がったひのきシートを見て、池田館長も「すばらしい、新たな創作意欲が湧く」と大喜びでした。ひのきのようにたんぱく質を含まない素材の染色は難しく、またひのきの固さもあって山本館長も苦心の末の染色であっただけに、池田館長の喜びの声に山本館長も満足そうでした。

趣味を同じくするお二方のお話は、弾む一方！いつまでも続きました。

東紀州、伊賀と同じ県内でありながら離れた地域の作家たちが、まちかど博物館をきっかけに交流する新たな連携が、またひとつ始まりました。



▲交流が始まった伊賀町の「糸と織物博物館」の山本館長（左）と尾鷲市の東紀州まちかど博物館「ヒノキアート」の池田館長（右）



▲山本館長の手で染め上がったひのきシートに感動

—お知らせ—

前述の「糸と織物博物館」山本恭子館長が、「社団法人 日本ホビー協会」が主催する「ホビー大賞 ボランティア賞」を受賞されました。ご受賞おめでとうございます。